

地震発生直後

揺れがおさまったら

落ち着いたら①

落ち着いたら②

地震発生

自分の身を守る

自分のいる場所は安全か？

YES

その場所を動かない

NO

避難場所へ避難

家族への安否連絡

※家族への連絡方法参照

自宅に歩いて帰れる？

YES

自宅へ

NO

避難場所へ

大学へ
安否報告

※大学からの安否確認方法参照

ポイント

身の安全を確保

- ガラス窓や棚のそばから離れる
- 机の下にもぐるかカバンや衣類などで頭を覆い、落下物から身を守る
- 出来る範囲でドアを開け出口を確保する
- 実験など火器や薬品を使用している場合は身の安全を第一に考え、初期消火をして危険物から離れる
- 広場やグラウンドにいる際はその場で座って揺れがおさまるまで待機する

ポイント

慌てず、騒がず、落ち着いた行動を

- まずは気持を落ち着ける
- 天井が落下したり、壁にヒビが入った場合は屋外に避難する
- 火災を発見したら「火事だ～」と大きな声で周りの人へ知らせ安全を確認した上で協力して消火活動を行う
- 負傷者がいた時はお互いに協力して応急手当する
- 余震がくることを想定して行動する

建物から退避する際の判断基準

- 天井からの落下物や棚やロッカー類の転倒、内壁の亀裂などがある
- 高圧ガスボンベが倒れたり、薬品類が転落し、ガス、液体などが流れた時
- 火災により薬品などの液体が充満した場合

避難行動時の注意点

- 貴重品は必ず身に着ける
- 一度避難したら戻らない
- 火災発生時は、煙を吸わないようタオルやハンカチなどで口と鼻を覆う
- エレベーターは使用しない
- 避難口までの最短で最も安全なルートを選択する
- 避難時は必ず出入口のドアを閉める

ポイント

状況が落ち着いてきたら安否の確認

- 建物内から避難したら、逃げ遅れた人がいないかどうか協力して確認する
- 逃げ遅れた人がいた場合は、教職員へ連絡する
- 逃げ遅れた人がいないことを確認してから指定する避難場所へ移動する

大学内の避難場所 ※裏面地図を参照

【世田谷キャンパス】

グラウンド

【厚木キャンパス】

学生会館・講義棟前広場

【オホーツクキャンパス】

グラウンド・野球場・テニスコート・体育館

ポイント

帰宅するのか、学校に残るのか

- 余震がおさまり落ち着いてきたら、自宅の安全や交通機関の状況などにより帰宅するか、大学に残るかを判断する
- テレビ、ラジオなどの正確な情報を踏まえた上で判断する
- 帰宅する場合は、必ず大学に連絡する
- 学校に残る場合は、大学の指示にしたがって行動する
- 家族の安否を確認し、連絡の取れない人は大学に連絡する

世田谷・厚木から10kmの地図



災害時に歩いて帰ることが出来る距離は約10km程度

- 駅周辺は大混雑となるがパニックに巻き込まれないよう冷静な行動をとる
- 周りの状況を確認して目的地に向かう
- 日没後の行動は危険である
- 夜間は犯罪に巻き込まれないよう単独行動を避ける

通学時の備え

- 歩きやすい履物で登校する（サンダルやハイヒールは避難時に危険）
- 通学途上から自宅までの徒歩経路を確認しておく
- 身の危険を知らせるための警笛を携行する（水、菓子、飴、常備薬、懐中電灯、携帯電話の予備電源なども）
- 事前に家族と相談して避難場所など決めておく

本マニュアルは緊急時を想定し、耐水性に優れた丈夫なレインガード紙を使用しています。

大地震・火災・事故 緊急時対応 ポケットマニュアル

東京農業大学

震度5強程度以上の地震が発生すると、建物の倒壊や交通機関に影響が出るなどの様々な被害が起こります。このマニュアルを常に携帯して身の安全を守り落ち着いた行動をとります。

2025/04/01

大学からの安否確認方法

大学に届け出ている住所（本人／保証人）が災害救助法適用地域の場合、大学より安否確認の連絡を行います。状況によって以下2パターン確認方法があります。

【パターン①】

大学から学生ポータル（全学共通のお知らせ）を通じて安否・被害状況確認に関するForms URLを送付

Formsを開き、項目に沿って安否・被害状況を回答

【パターン② ※緊急を要する場合】

大学から緊急メールアドレスに安否・被害状況確認に関するForms URLを送付

Formsを開き、項目に沿って安否・被害状況を回答

地震発生直後

揺れがおさまったら

落ち着いたら①

落ち着いたら②

地震発生

自分の身を守る

自分のいる場所は安全か？

YES

その場所を動かない

NO

避難場所へ避難

家族への安否連絡

※家族への連絡方法参照

自宅に歩いて帰れる？

YES

自宅へ

NO

避難場所へ

大学へ
安否報告

※大学からの安否確認方法参照

ポイント

身の安全を確保

- ガラス窓や棚のそばから離れる
- 机の下にもぐるかカバンや衣類などで頭を覆い、落下物から身を守る
- 出来る範囲でドアを開け出口を確保する
- 実験など火器や薬品を使用している場合は身の安全を第一に考え、初期消火をして危険物から離れる
- 広場やグラウンドにいる際はその場で座って揺れがおさまるまで待機する

ポイント

慌てず、騒がず、落ち着いた行動を

- まずは気持を落ち着ける
- 天井が落下したり、壁にヒビが入った場合は屋外に避難する
- 火災を発見したら「火事だ～」と大きな声で周りの人へ知らせ安全を確認した上で協力して消火活動を行う
- 負傷者がいた時はお互いに協力して応急手当する
- 余震がくることを想定して行動する

建物から退避する際の判断基準

- 天井からの落下物や棚やロッカー類の転倒、内壁の亀裂などがある
- 高圧ガスボンベが倒れたり、薬品類が転落し、ガス、液体などが流れた時
- 火災により薬品などの液体が充満した場合

避難行動時の注意点

- 貴重品は必ず身に着ける
- 一度避難したら戻らない
- 火災発生時は、煙を吸わないようタオルやハンカチなどで口と鼻を覆う
- エレベーターは使用しない
- 避難口までの最短で最も安全なルートを選択する
- 避難時は必ず出入口のドアを閉める

ポイント

状況が落ち着いてきたら安否の確認

- 建物内から避難したら、逃げ遅れた人がいないかどうか協力して確認する
- 逃げ遅れた人がいた場合は、教職員へ連絡する
- 逃げ遅れた人がいないことを確認してから指定する避難場所へ移動する

大学内の避難場所 ※裏面地図を参照

【世田谷キャンパス】

グラウンド

【厚木キャンパス】

学生会館・講義棟前広場

【オホーツクキャンパス】

グラウンド・野球場・テニスコート・体育館

ポイント

帰宅するのか、学校に残るのか

- 余震がおさまり落ち着いてきたら、自宅の安全や交通機関の状況などにより帰宅するか、大学に残るかを判断する
- テレビ、ラジオなどの正確な情報を踏まえた上で判断する
- 帰宅する場合は、必ず大学に連絡する
- 学校に残る場合は、大学の指示にしたがって行動する
- 家族の安否を確認し、連絡の取れない人は大学に連絡する

世田谷・厚木から10kmの地図



災害時に歩いて帰ることが出来る距離は約10km程度

- 駅周辺は大混雑となるがパニックに巻き込まれないよう冷静な行動をとる
- 周りの状況を確認して目的地に向かう
- 日没後の行動は危険である
- 夜間は犯罪に巻き込まれないよう単独行動を避ける

通学時の備え

- 歩きやすい履物で登校する（サンダルやハイヒールは避難時に危険）
- 通学途上から自宅までの徒歩経路を確認しておく
- 身の危険を知らせるための警笛を携行する（水、菓子、飴、常備薬、懐中電灯、携帯電話の予備電源なども）
- 事前に家族と相談して避難場所など決めておく

大学にいるとき

通学中

家族への連絡方法

災害用伝言ダイヤル(171)の使い方

171

録音の場合
①を押す

再生の場合
②を押す

ガイダンスにしたがってメッセージを録音または再生

障がいのある学生へのサポート

- 障がいのある学生の所在を確認する
- コミュニケーションを取りながら、必要な支援は何かを確認する
- 相手も自分も笑顔で対応することがお互いの安心につながる
- 聴覚障害・視覚障害の学生には避難に必要な情報をわかりやすく伝える



▲ 災害時要配慮者への支援（東京都防災ホームページ）

大学構内避難場所

世田谷キャンパス



AED設置場所

- ☆農大サイエンスポート1・2・3・5・6F
- ☆健康サポートセンター(11号館)
- ☆守衛室
- ☆国際センター1F
- ☆農大アカデミアセンター1・3・8F
- ☆1号館1・3F
- ☆桜丘アリーナ1・2F
- ☆常磐松会館本館1F
- ☆常磐松学生会館1F
- ☆常磐松会館道場1F
- ☆桜丘寮・若草寮・常磐寮
- ☆18号館1F
- ☆グリーンアカデミー1F

緊急時の連絡先

- [平日] 所属する各学部事務局
(農大サイエンスポート)へ連絡
5F 応用生物科学部
ousei@nodai.ac.jp 03-5477-2917
3F 生命科学部
seimei@nodai.ac.jp 03-5477-2912
2F 地域環境科学部
chiiki@nodai.ac.jp 03-5477-2911
6F 国際食料情報学部
kokusai@nodai.ac.jp 03-5477-2918
- [夜間・休日] 警備本部へ連絡
直通:03-3426-6087 内線:5555
- ※火災の場合は(119)へ先に通報

厚木キャンパス



AED設置場所

- ☆本部棟1F中央監視室
- ☆研究棟1F学生教務課前
- ☆実験実習棟1F
- ☆学生会館1Fアグリラウンジ
- ☆生き物連携センター管理室
- ☆体育館1F EVホール

緊急時の連絡先

- [平日・夜間・休日]
中央監視室へ連絡
内線:3100
a-saigai@nodai.ac.jp
直通:046-270-6221
非常用:046-247-8642

※火災の場合は(119)へ先に通報

北海道オホーツクキャンパス



AED設置場所

- ☆学部本部(1号館)1Fホール
- ☆学生会館2Fトレーニングルーム
- ☆体育館1Fロビー
- ☆研究講義棟(2号館)1F
- ☆第1研究実験棟(5号館)2F
- ☆講義実験棟(8号館)2F
- ☆第2研究実験棟(11号館)2F

緊急時の連絡先

- [平日] 学生教務課へ連絡
o-saigai@nodai.ac.jp
直通:0152-48-3813
- [夜間・休日] 警備室へ連絡
直通:0152-48-3808

※火災の場合は(119)へ先に通報

心肺停止になった場合の救命処置

① 反応があるか確認

- ・「応答」や「しぐさ」がない!

② 119番通報とAEDを持ってくるよう依頼する

③ 呼吸の確認(胸と腹部の動きを見る)

- ・正常な呼吸がない!

④ ただちに心臓マッサージを行う

- ・強く→胸の真ん中が5cm沈むように(成人)
- ・早く→1分間に100~120回のテンポで30回
- ・絶え間なく→中断は最少に(交替可)

※感染症防止のため倒れている人のマスクは外さない
マスクをしていない場合は鼻と口に布をかぶせる

⑤ 原則、人工呼吸は行わない

(感染症防止)

⑥ AEDが到着

- ・ふたを開け電源を入れる (自動で入る機種あり)
- ・電極パッドを装着する
- ・音声ガイドに従う
- ・除細動ボタンを押す時は「みんな離れて」と声を出す
- ・電気ショック後、ただちに心臓マッサージを再開する



日本医師会制作物より転載

火災発生時の行動

- 早く周りの人たちに「火災」を知らせるため、大声で「火事だ〜!」と叫んで、他の人の協力を呼びかける
- 火災警報器(非常ベル)を押して、警報音を発動させる
- 火災の場合は119番通報する
- 近くにある消火器や屋内消火栓を活用し、周りの人たちと協力して消火する
- 煙が立ち込めていたら姿勢を低くして避難する

